

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：54502

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010 ～ 2011

課題番号：22720093

研究課題名（和文） 古筆切を中心とする清輔本勅撰和歌集のペリテキストの様態分析

研究課題名（英文） An analysis of explanatory note in the Chokusen Wakashu of Kiyosuke Fujiwara manuscript with a focus on Kohitugire

研究代表者

舟見 一哉（FUNAMI KAZUYA）

神戸市立工業高等専門学校・講師

研究者番号：80549808

研究成果の概要（和文）：

院政期を代表する歌学者であった藤原清輔は、自身が書写校訂した勅撰和歌集にペリテキスト（注記を指す。勘物とも）を書き加えている。このペリテキストに焦点を当て、清輔の行った勅撰和歌集の研究方法を分析した。主な成果として、(1) 散佚した清輔本古今集のペリテキストを発見、(2) 清輔本ペリテキストの役割を明らかにし、歌学書との関係性をモデル化、(3) 清輔本後拾遺集のペリテキストを同定する方法の提示、という3点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：

Kiyosuke Fujiwara is known well as an attract literary in the Insei period. He transcribed Chokusen wakashu (Imperial waka anthologies), added many explanatory notes. I focused his explanatory notes to follow his approach to Chokusen wakashu. The essential points are: (i) Discovered the lost manuscript; Kokin Wakashu of K-Fujiwara manuscript. (ii) Showing his purpose to write explanatory notes, and the relationship between explanatory notes and Kagakusho written by him. (iii) Selection of his explanatory notes in Goshui Wakashu.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：勅撰和歌集・勘物・藤原清輔

## 1. 研究開始当初の背景

本研究題目にいう「ペリテキスト」とは、写本本文の傍らや欄外等へ書き込まれた、書き

入れ注記類のことである。従来、ペリテキストは軽視されがちであったが、報告者の研究（2007～2008 年度日本学術振興会特別研究員奨励費「勘物・古筆資料からみた勅撰集の受

容と変容)によって、本文研究や注釈書研究のみからでは知り得ない、歌学の一面を明らかにしうることが判明した。本研究はこれまでの研究を発展させ、より多くのペリテキスト資料を集成、観察し、その体系的整理と読解を進めるものである。

## 2. 研究の目的

以下の3点を目的とする。

- (1) 残存ペリテキスト資料の網羅的調査
- (2) ペリテキスト群の体系的整理とペリテキストを座標とする伝本系譜の再構築
- (3) ペリテキストと本文との影響関係・存在意義およびペリテキスト間の連関の解明

現存するペリテキスト群のほとんどは、清輔本と何らかの関係を有する。したがって、ペリテキストの分析は、自ずと清輔本の様態分析となる。すなわち本研究の最終的な目的は、清輔本の生成と成長、清輔本のペリテキスト間の連関関係を明らかにし、清輔の歌学を体系的に解明することである。

## 3. 研究の方法

- (1) 残存ペリテキスト資料の網羅的調査

各地に分散するペリテキスト資料を、現地調査を経たうえで集成する。特に諸家に分蔵されている、ペリテキストを有する古筆切を調査集成の対象とし、情報を公開する。

- (2) ペリテキスト群の体系的整理とペリテキストを座標とする伝本系譜の再構築

上記(1)において集成したペリテキスト群を、作品ごとに整理し、書承関係や影響関係を見極めて体系的に整理する。そして本文系統を勘案しつつ、ペリテキストを座標とした伝本の系譜を新たに構築する。

- (3) ペリテキストと本文との影響関係・存在意義およびペリテキスト間の連関の解明

ペリテキストが本文に与えた影響について、主に清輔本『古今和歌集』を対象として具体的に分析する。また、そこにペリテキストが存する意味や、既存の注釈書 epitexte との関係、ペリテキスト間の連関関係を分析する。

## 4. 研究成果

- (1) 貞応元年六月十日書写本『古今和歌集』のペリテキスト

陽明文庫蔵の当該資料には、仮名序から巻六にかけて、清輔本『古今和歌集』の勅物が校合されている。この勅物は従来知られていた四本とは異なるものである。その内容から、これは永治二年本から仁平四年本への過渡期の清輔本を残す唯一の佚文であると推定し、勅物の全文翻刻を行った。

清輔本の勅物らしきものが書き込まれた『古今和歌集』の古筆切が発見された場合、従来は永治二年本・仁平四年本・保元二年本・その他、といった四系統のいずれかであると考えられてきた。しかし、本研究によって、さらに別系等の清輔本が存したことが明らかになり、従来の系統同定にも再考の余地が生じることになる。今後は、本研究を踏まえた清輔本『古今和歌集』全体の見直しが必要である。

- (2) 清輔本『古今和歌集』のペリテキストの役割について

上記(1)新出の清輔本古今集勅物について内容分析を行った。特に清輔著歌学書類との比較を行い、清輔歌学において、歌学書と勅物が異なる機能を持っていることを示した。すなわち、歌学書が〈一首の解釈に関するもの〉であるのに対して、勅物は『古今集』の成立・構成に関する分析であることを明示した。そして、『古今集』自体を分析した勅物とは、勅撰集の故実・問題点を知るために、ひいては自分が勅撰集撰者たり得ることを誇示する役割をもって加えられた、清輔の研究成果であると述べた。

本研究は、清輔歌学が、歌学書だけでなく、ペリテキストと連関する総体として存在することを示した。清輔歌学のはじめてのモデル化という点に本研究の意義がある。なお、ペリテキストの個別例についての分析は今後の課題として残っている。

- (3) 清輔本『後拾遺集』のペリテキスト

『後拾遺和歌集』諸本の勅物は、ひとつの清輔本に還元できると考えられてきた。しかし、伝日野俊光筆千種切には重複した内容をもつ二種類の勅物が併存している。勅物の位置から推するに、頭注は清輔本勅物であり、傍注は定家本勅物に由来すると思われる。また、他の本にはない追考も千種切には存するので、復元される清輔本も複数を用意しておく必要がある。つまり、現存する『後拾遺和歌集』の勅物からは、少なくとも前期清輔本・後期清輔本・定家本という三種が復元されることが考え得る(以上、口頭発表)。

その後、新たな資料が確認できたため、論文としてまとめることは次年度へ持ち越す。千種切の集成および勅物一覧も次年度に公開する。

- (4) ペリテキストをもつ古筆切の書写形式と内容の関係性について

勅物を有する古筆切のうち、勅物を書き込むための余白を予め設けておき、和歌一首二行書の形式を取るものがある。その殆どが、親本をそのまま踏襲した場合が多く、勅物を扱う際に信頼しうる資料たりうることを示

した。また、勘物を書き込む位置も、親本の素性を遡る観点から看過すべきではない。これまで重視されることのなかった、勘物の位置や形式に焦点をあてた研究である点に本研究の意義がある（以上、口頭発表）。

その後、さらに多くの古筆切を収集でき、ペリテキストの位置が、上欄や欄脚から本行へ、さらに本文と同じポイントで書写されていく変化の様子を具体的に確認できるようになった。この点も踏まえて次年度に論文として公開する。

#### (5) 伊達本『古今和歌集』について

清輔本を考える上で常に考慮すべきは定家本の存在である。そこで定家自筆として著名な伊達本の奥書・本文・ペリテキストの分析を行った。その結果、定家本の諸本の本文が定家の古今集研究の成果を随時反映して変化していく、という従来説を否定した。さらに、伊達本は家の証本としてつくられたものではなく、家外のために書写し与えられた本であった可能性を指摘した。

なおその後、定家本ペリテキストが、その書写本の性格を規定する要素たり得ることが判明した。ペリテキストといえば清輔本と考えがちではあるが、清輔本以外のペリテキストにも注意すべきであることがわかり、今後はさらに調査対象を広げていく必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①舟見一哉，「類聚歌合の筆跡—先行研究の整理と問題提起—」，『陽明文庫王朝和歌集影』，勉誠出版，pp. 188-192，(2011. 11)，査読なし

②舟見一哉，「永治二年以後の清輔本古今集逸文」，『文学・語学』，201号，pp. 1-17 (2011. 11)、査読あり

③舟見一哉，「陽明文庫蔵伝為相筆『古今和歌集』校合 清輔本勘物」，『京都大学國文學論叢』，25号，pp. 1-14 (2011. 3. 31)、査読あり

[学会発表] (計3件)

①舟見一哉，「勘物のある古筆切について」，好古会，(2011. 12)、単

②舟見一哉，「清輔本『後拾遺和歌集』諸本

の勘物について」，和歌文学会第一〇五回関西例会，(2011. 4)、単

③舟見一哉，「伊達本古今和歌集の本文について」，和歌文学会6月東京例会，(2010. 6)，単

[図書] (計2件)

①国文学研究資料館編，勉誠出版，『陽明文庫王朝和歌集影』，2011，1-。 pp. 252 (共著)

②田中登編，思文閣出版，『平成新修古筆資料集 第五集』，2010. 9，pp. 78-79 および pp. 144-145

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等  
なし

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

舟見 一哉 (FUNAMI KAZUYA)  
神戸市立工業高等専門学校・講師  
研究者番号：80549808

(2) 研究分担者 なし  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし  
( )

研究者番号：